

平成30年度 サステナブル建築物等先導事業（省CO₂先導型）
LCCM住宅部門 応募概況

1. 事業概要

- ・基本要件①～③を全て満足する戸建住宅を新築する事業で、波及・普及に資するものを採択

【基本要件】

- ①LCCO₂を算定し、結果が0以下となること（※）
（評価ツール）「CABEE戸建（新築）2018年版」または「適合判定ツール」
- ②ZEH要件に適合すること（※）
 - ・外皮性能（強化外皮基準）
 - ・再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から20%以上の削減
 - ・再生可能エネルギーを導入（容量不問）
 - ・基準一次エネルギー消費量から100%以上の削減
- ③住宅の品質の確保として、CASBEEのB+ランク以上又は長期優良住宅認定を取得
※提案応募時には、代表的な戸建住宅（モデルプラン）での評価結果を提出

- ・住宅を供給する事業者1社ごとに応募（1法人1提案）
- ・補助限度額 1戸あたり125万円

2. 応募状況

(1) 概況

- ①応募数 67件（67事業者）^注
 - ②要望戸数 1,147戸（1事業者平均17戸、補助金申請額 合計14.3億円）
- 注）提案応募があったものの、基本要件の不適合等が判明し、応募者による申請の取り下げが3件あった。

(2) 応募事業者の概要

- ①直近3年間の年間平均供給戸数（下記 表1）
- ②LCCM住宅関連の実績：LCCM住宅認定の取得実績 あり 9社／なし58社
ZEH補助金の活用実績 あり61社／なし 6社
BELSの取得実績 あり63社／なし 4社

表1 年間平均供給戸数別事業者数

	年間平均供給戸数区分(戸)							合計
	1-4	5-9	10-19	20-49	50-149	150-499	500-	
事業者数 (件)	5	8	12	8	11	13	10	67
割合 (%)	7	12	18	12	16	19	15	100

3. 代表的な戸建住宅（モデルプラン評価）の提案概要

※構造・構法等が異なる住宅を供給する場合は、複数の住宅タイプとして応募可能

(1) 提案住宅（モデルプラン評価）の概要

- ①提案住宅タイプ数 : 81件
- ②構造別内訳 : 木造72件／鉄骨造8件／コンクリート造0件／混構造1件
- ③長期優良住宅の取得予定 : あり77件／なし4件
- ④評価対象地域の分布(下記 表2)

表2 モデルプラン評価の対象地域

	地域区分							
	1	2	3	4	5	6	7	8
件数 (件)	0	2	2	5	12	47	13	0
割合 (%)	0	2	2	6	15	58	16	0

(2) LCCO₂評価結果の概要

- ①評価ツール : CASBEE戸建(2018年版)11件／適合判定ツール70件
- ②LCCO₂排出率(次頁 図1～図4)
- ③適合判定ツール(70件)における評価の概要
 - ・計画供用期間 : 90年 68件／60年 1件／30年 1件
 - ・建設段階のCO₂削減対策(下記 表3)

表3 建設段階におけるCO₂削減対策の概要

【木質系】建設段階におけるCO ₂ 削減対策		件数
①	基礎コンクリートに高炉セメントB種を利用	3
②	構造用木材の過半にバイオマス乾燥木材・天然乾燥木材を利用	7
③	構造用木材の概ね全てバイオマス乾燥木材・天然乾燥木材を利用	6
④	①+②の場合	1
⑤	①+③の場合	0
上記のいずれも採用していない		44
合計		61

【鉄骨系】建設段階におけるCO ₂ 削減対策		件数
①	軽量鉄骨造の場合	3
②	基礎コンクリートに高炉セメントB種を利用	0
③	①+②の場合	0
上記のいずれも採用していない		5
合計		8

(3) LCCO₂排出率及びZEH要件の達成状況

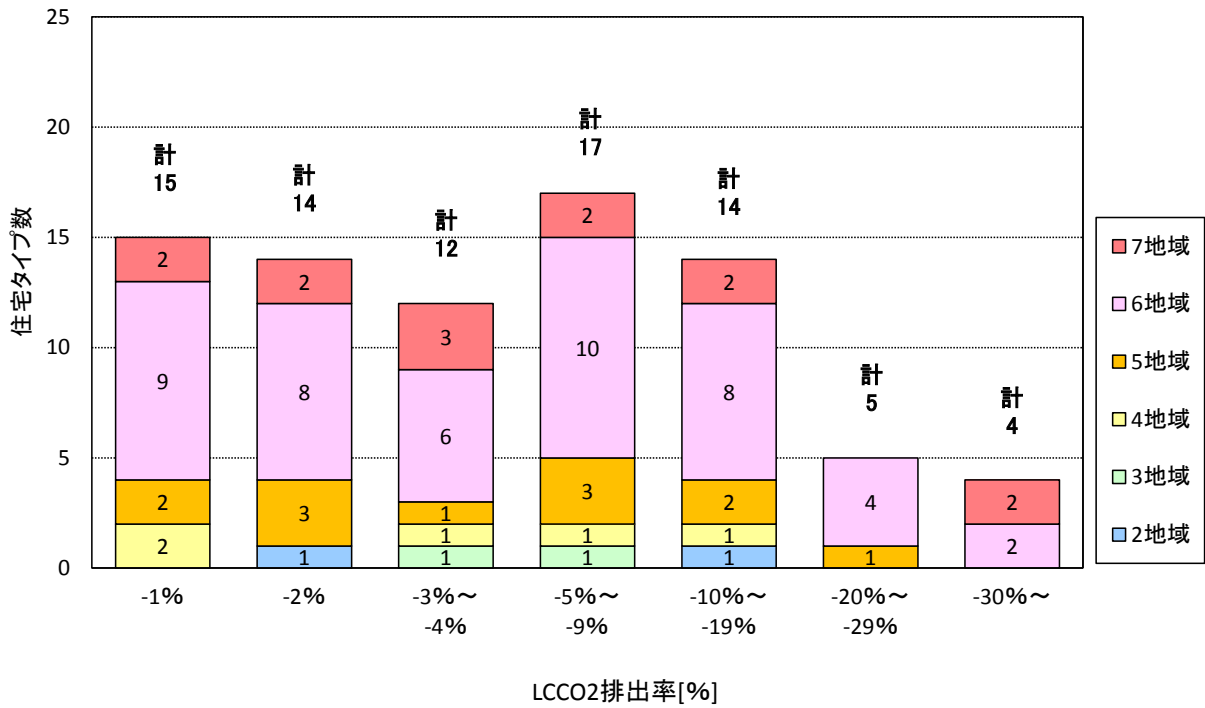


図1 LCCO₂排出率[※]の分布

※LCCO₂排出率は0%以下が要件

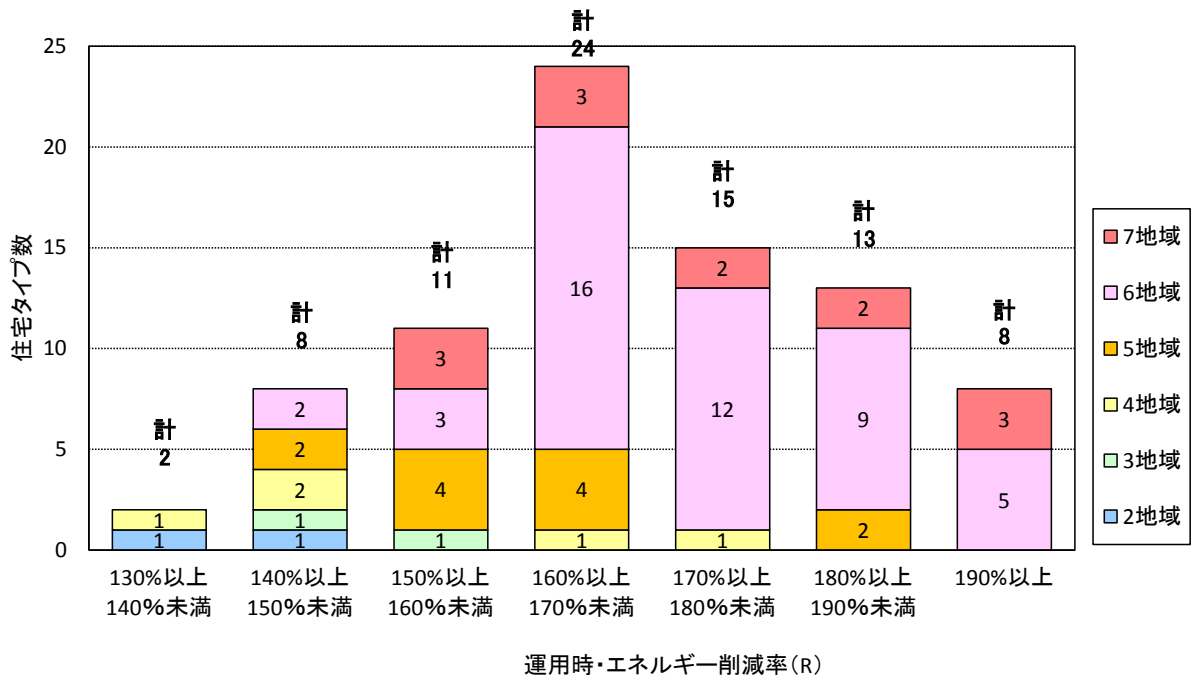


図2 運用時・エネルギー削減率(R)[※]の分布

※基準一次エネルギー消費量からの削減率

(100%削減以上が要件、130%未満の提案はなし)

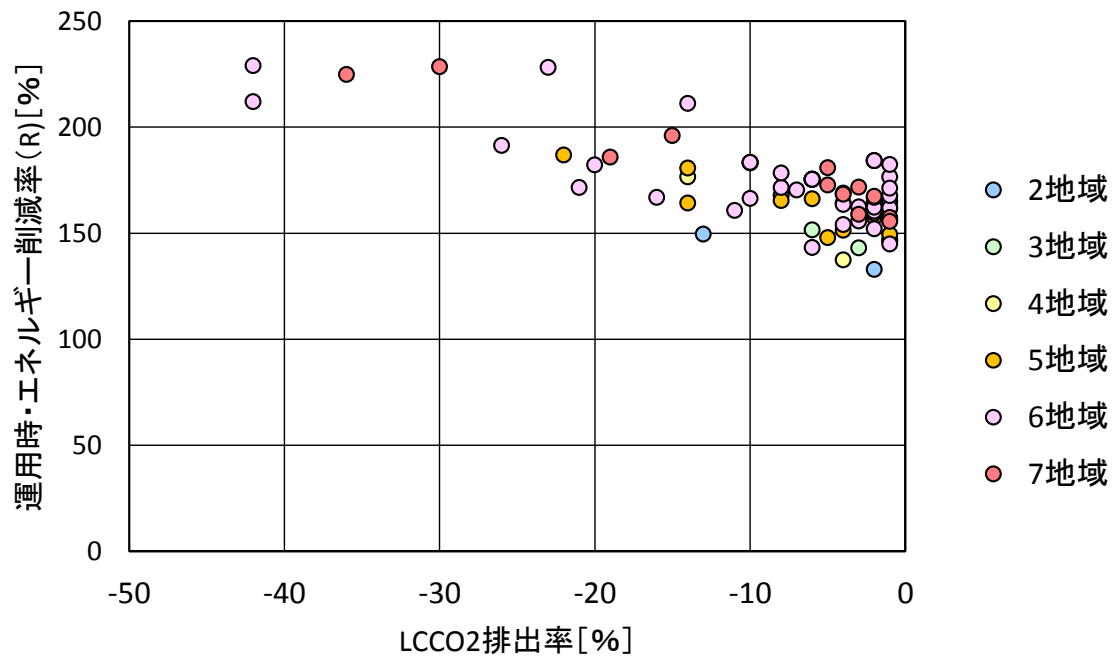


図3 LCCO₂排出率とZEH達成状況（運用時・エネルギー削減率R）の分布

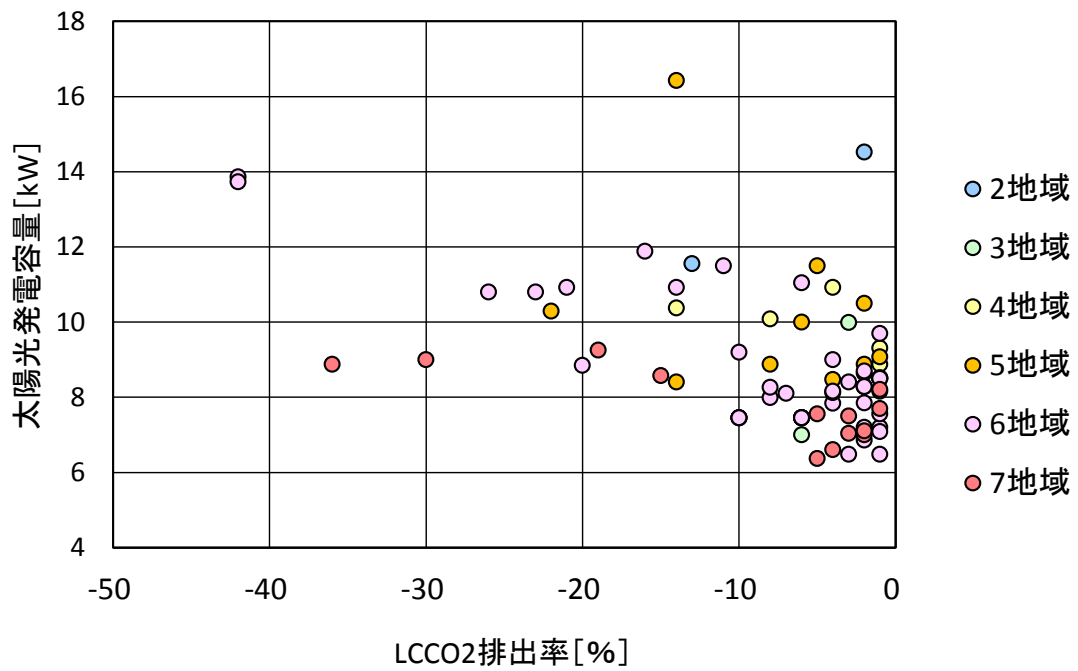
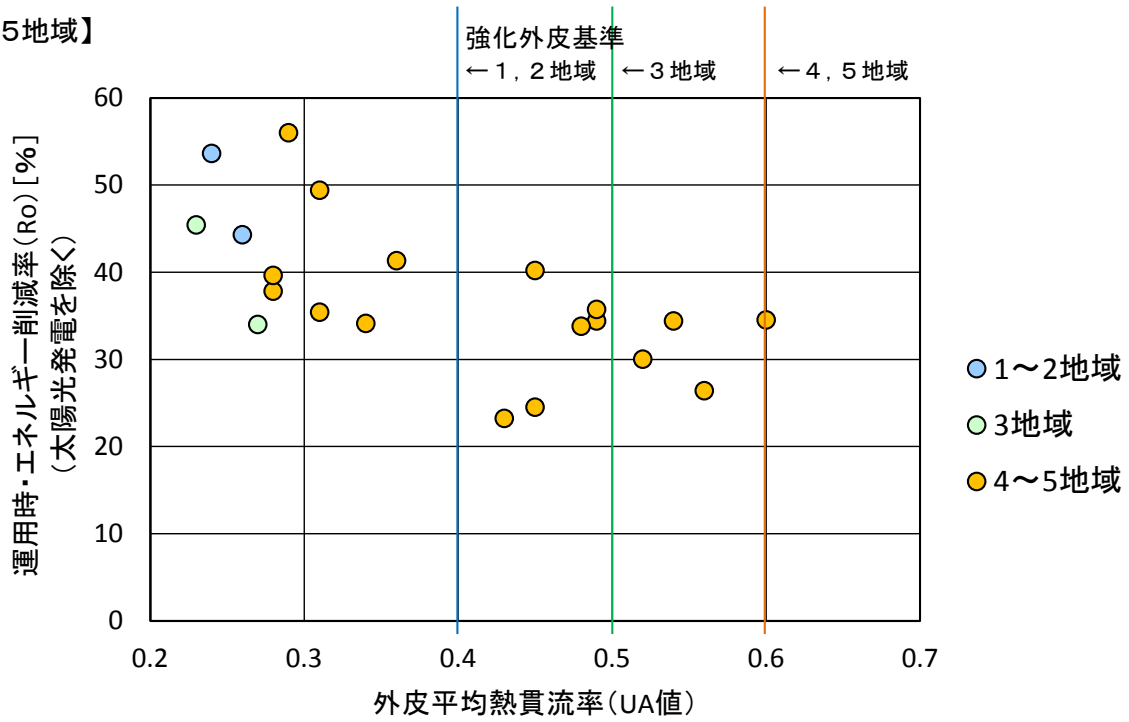


図4 LCCO₂排出率と太陽光発電容量の分布

【1～5地域】



【6～7地域】

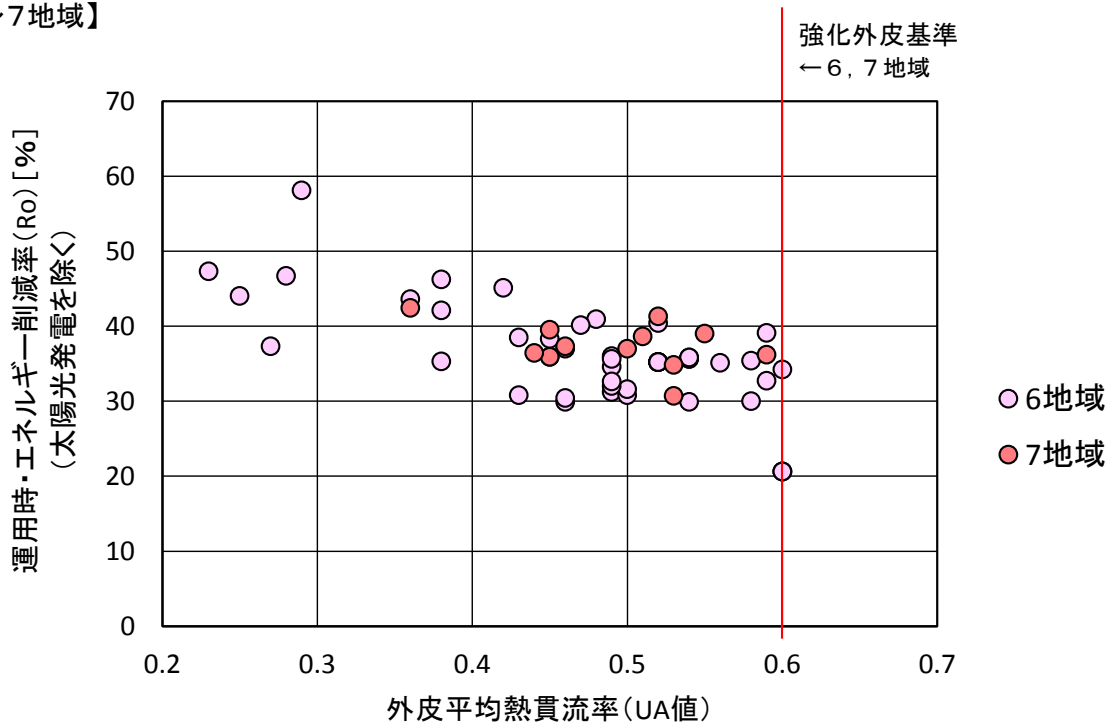


図5 外皮平均熱貫流率 (U_A値) と
運用時・エネルギー削減率 (太陽光発電を除く : R_o) *の分布

※エネルギー削減率 (太陽光発電を除く : R_o) は20%以上が要件